

# 運動の楽しさや喜びを味わい、主体的に運動に取り組む児童の育成 ～ タグラグビーの授業づくりを通して ～

令和4年度 教科別研究指定校（体育科）  
前橋市立時沢小学校

## 主題設定の理由

新学習指導要領の求めるもの

- ・主体的・対話的で深い学びの実現
- ・豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成

前橋市 各教科等指導の努力点

- ・仲間とともに主体的に考え、学んだ成果を実感・共有できる指導の充実
- ・体力向上を意図した取組の推進

本校の児童の実態

- ・休み時間は校庭で遊んでいる児童が多い。複数人で遊ぶことを好む児童と、個で遊ぶことを好む児童とさまざまである。
- ・体育の授業では、指示されたことに対してとても素直に取り組むことができるが、やや主体性に欠けており、協働的な学習を行う際には、できる・分かる児童の声が大きく、その意見に流されてしまう児童もいる。

運動の楽しさや喜びを味わい、自信を持ち主体的に運動に取り組む児童の育成を目指したい。

## 研究の概要

手だて1  
系統的な指導の工夫  
○各学年の単元計画の作成  
○段階的な指導の工夫

- ・去年の学習で〇〇までできたから、今年は△△をがんばろう。
- ・今日は◇◇をがんばろう。



手だて2  
ICTの活用  
○ルールや作戦の動画作成  
○授業内でのタブレットの活用

- ・動画だと、〇〇作戦の動きが言葉や図だけより、イメージしやすいな。
- ・(撮影した動画を見て)前より、△△がよくなってきているね。



手だて3  
技能を習得する活動の工夫  
○単元の見通しの明確化  
○スタートブック・ワークブックの作成

- ・今日は〇〇をめあてにしてがんばろう。
- ・前回より、△△が◇◇できるようになってきたな。



- ・6年間を通して系統的にタグラグビーに取り組むことで、運動の技能を効率よく身につけることができる。
- ・学習の見通しをもつことで、個人やチームのめあてに向かって、主体的に運動に取り組もうとする態度を養うことができる。
- ・運動に慣れ、できることが増えると運動が好きになり、より主体的に取り組むことができる。

# 手だて1 系統的な指導の工夫

## ○単元計画の作成

6年単元計画		単元目標	
単元名 「タグラグビー」		(知識・技能) タグラグビーの楽しさや喜びを味わい、その行い方を知るとともにゴールを持っている時と持っていない時の動きを理解し、ボールを動かすことができるようにする。 (思考・判断・表現) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を立案したりするとともに、自分や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (主体的に取り組む態度) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりできるようにする。	
つかむ		追究する	まとめる
学習活動	1 本時のめあてと学習の進め方を確認する。 2 タグラグビーの簡単なルール・用語を確認する。 3 準備運動とタスクゲームを行う。 ・並行パス ・スネークパス ・円陣パス ・2on1, 3on2 ・タグ取り など 4 試しのゲームを行う。 5 学習を振り返り、次時のめあてもつ。 ・ゴールを持ったときにゴールに棒を向けることができる。	1 本時のめあてと学習の進め方を確認する。 2 ルールにそった審判の仕方を確認する。 3 準備運動とタスクゲームを行う。 4 自分たちのチームに合った作戦を立案したり考えたりする。 5 メインゲームを行う。 6 学習を振り返り、次時のめあてもつ。	1 本時のめあてと学習の進め方を確認する。 2 新しいチームに合った作戦を考える。 3 タスクゲームとメインゲームを行う。 4 全体で学習を振り返る。
具伴の評価規準の例	・ゴールを持ったときにゴールに棒を向けることができる。 ・見方にボールを手渡ししたり、パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりすることができる。	・タグラグビーの行い方について、言ったり書いたりしている。 ・ボールを持ったときに、ゴールに向かってボールを動かすことができる。 ・味方にボールを手渡ししたり、パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりすることができる。 ・ボールを持った味方についていき、パスを受けようとするることができる。	・タグラグビーの行い方について、言ったり書いたりしている。 ・ボールを持ったときに、ゴールに向かってボールを動かすことができる。 ・味方にボールを手渡ししたり、パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりすることができる。 ・ボールを持った味方についていき、パスを受けようとするることができる。
ゲーム形式	・パスの仕方や受け方、ボールを持った時の走り方などのポイントや友達と伝え合っている。	・取めを行いやすいようにするなどの規則を選んでいる。 ・チームで話し合いながらタスクゲームや作戦を立案し、得点につなげようとしている。	・ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を立案している。 ・ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ・パスを出したり、ゴールにボールを持ち込んだりするときの工夫を友達に伝えている。
ルール	・練習やゲームに進んで取り組んでいる。 ・ルールを守り、友達と協力してタスクゲームや試しのゲームをしている。 ・分担された用具の準備や片付けを行ったり、場の安全に気を配ったりしながら学習することができる。	・練習やゲームに進んで取り組んでいる。 ・ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ・友達のことを認めようとしている。 ・分担された用具の準備や片付けを行ったり、場の安全に気を配ったりしながら学習することができる。	・練習やゲームに進んで取り組んでいる。 ・ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ・友達のことを認めようとしている。 ・分担された用具の準備や片付けを行ったり、場の安全に気を配ったりしながら学習することができる。
審判	・4対4 ・簡易ルール(時間制で攻守交替、反則したら1タグ抜いなど)→正式ルールに近い簡易ルール(トライ、3タグ、反則したら攻守交替。攻守交替時は中央から再開など) ・ゲームをしていないチームが基本的には審判(主審と副審、旗持ち審判、トライ確認審判など)		

タグラグビーはまだ新しい種目で、体育を専門としない教員にとっては、「何をどのような順番で学習していくのかが、わかりにくく不安」という声があったので、学習内容、評価基準、ルールなどをわかりやすくまとめた各学年ごとの単元計画を作成しました!



**6年間を見通した各学年の単元計画の作成**  
 1年生から段階的にタグやボールに触れることで、必要な技能を無理なく身につけることができます。ルールや作戦なども学年によってかえることで、発達段階にあった学習ができます。

# 手だて2 ICTの活用

## ○ルールや作戦の動画の作成



言葉や図だけでは、わかりづらいものも、動画にすることで児童が内容を理解しやすくなります。またクラスルームにルールや作戦の動画をアップすることで、必要な時に必要な動画をすぐに見ることができます。



**パス練習やドリルゲームの動画**  
 教えたい内容だけに沿った動画なので、ピンポイントでやり方やポイントを示すことができます。

**作戦の動画**  
 児童がゲーム内で使いやすい作戦を動画にすることで、児童が内容をイメージしやすく、自分たちのチームに合った作戦を選ぶことができます。

## ○ICTの活用



**タブレットPCの活用**  
 タスクゲームでの様子や試合で作戦がどのように機能しているかなどを動画に撮ることで、客観的に自分やチームのプレイを振り返ることができ、次の学習へ生かすことができます。また、友達のよいプレーにも気づくことができます。

○単元の見通しの明確化

① タグラグビーとは

「タックル(あいてにぶつかる)→( )をとる。」  
 になっているラグビーです。

② タグのつけ方



◎ポイント

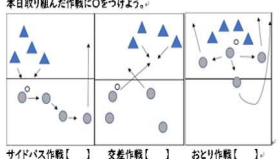
- ・ベルトをおなかにまく。
- ・あいてにみえるように、りょう方にベルトをつける。

③ タグの取り方、返し方

- ・タグをとったら、タグをもって、「タグ」と大きな声で言う。
- ・そのあと、相手に「どうぞ」と言って手わたしする。

めあて:

本日取り組んだ作戦に○をつけよう。

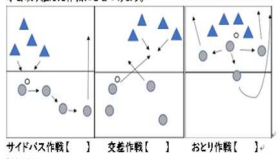


サイドパス作戦【 】 交代作戦【 】 おとり作戦【 】

振り返り:

めあて:

本日取り組んだ作戦に○をつけよう。



サイドパス作戦【 】 交代作戦【 】 おとり作戦【 】

振り返り:

**発達段階・学習活動にあったスタートブック・ワークブックの作成**

学習の流れを冊子にまとめることで、過去の学習を振り返ったり、これから行う学習への見通しをもって活動を行ったりできました。また、基本的なルールやタスクゲーム、作戦なども載せることで、わからないときに振り返って確認することができました。

1冊にまとめることで、ポイントの確認や振り返りなどもしやすく、めあての確認や振り返りの時間の短縮になり、結果的に運動量の確保につながります。



その他の活動

○朝活動の工夫(サーキット)



**サーキット**  
 朝活動の時間に奇数・偶数学年に別れて分散開催し、走る運動、投げる運動、跳ぶ運動など12種類の種目を行います。

○用務技士さんの活躍



**手作りの学習用品**  
 用務技士さんが、サーキットや授業で使う的あて台やラダー、なわとび台など、さまざまなものを手作りしてくれました。

○教職員の研修



**ICT機器の活用研修**  
 体育の授業の中でどの場面でICT機器を使うと効果的か、実際にマットで実技をしながら研修を行いました。



◎ 成果

手だて1 系統的な指導の工夫

各学年の単元計画の作成  
段階的な指導の工夫

前年度までの学習内容を踏まえ、発達段階にあった学習を行うことができた。タグラグビーの指導を自信をもって行うことができた。

手だて2 ICTの活用

ルールや作戦などの動画の作成  
タブレットの活用

動画にすることで、児童が言葉や図よりも作戦等を理解しやすかった。試合で撮った動画を振り返りに使うことで、互いに上達を認め合ったり、アドバイスをし合ったりすることができた。

手だて3

技能を習得する活動の工夫

単元の見通しの明確化  
スタートブック・ワークブックの作成

ルールや作戦の紹介、授業の流れ、めあてや振り返りの記入などを1冊にまとめることで、児童も教員も見通しを持って、学習を行うことができた。



◎ 課題

- 運動量の確保と、伝え合い・話し合いの活動、ICTの活用などの両立が難しかったので、今後も継続して取り組んでいきたい。
- タグラグビーでの授業スタイルは確立できたので、その他の領域で、本研究を生かした継続的な取組を行っていきたい。

◎ その他の活動の成果

朝のサーキットトレーニングで多様な運動を取り入れることで、児童は楽しみながら走・跳・投の体力をバランスよく身に付けることができ、新体力テストの結果の向上につながった。

用務技士さんが、朝のサーキットトレーニングや体育の授業などの活動の目的に合ったものを手作りしてくれたので、使い勝手がとてもよかった。ハードル収納台などのおかげで、体育倉庫もすっきり整理ができた。